ネットワーク

KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク

KITANET Network 会員数 MEMBER
正会員 58団体・18個人
賛助会員 54個人 16企業・団体
2019年7月現在

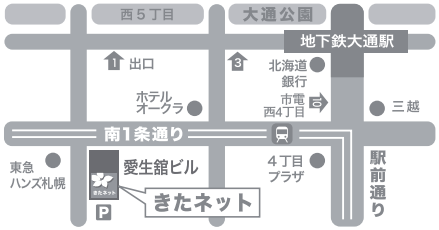
きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 / 網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワークス株式会社 / 五島冷熱株式会社 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部 株式会社地域環境計画北海道支社 / DCM ホーマック株式会社 / 株式会社トゥリー / パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南 / 株式会社プリプレス・センター / 北海道自動車処理協同組合 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社 /

きたネットの活動にご寄付・ご協賛をいただいたみなさまです。ありがとうございました。(順不同)
寄付・協賛(2019年4月~6月)

一般社団法人札幌空調衛生工事業協会、株式会社 北翔、山本建設株式会社、川正染工株式会社、北日本測地株式会社、株式会社 櫻井千田、株式会社 GV 北海道支部、石上車輌株式会社、ハッピーブレインクラブ北海道、フォレストクリエイトタック /TACK、札建工業株式会社、親切会 北海道支部、株式会社宅建、株式会社オール、株式会社セクト、株式会社カンリ、株式会社リロケーションサービス

【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生舘ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org



一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。

vol.08

きたネット ニュース KITA-NET NEWS 2019/08

きたネット

きたネットWeb http://www.kitanet.org/
きたマップ http://kitamap.net
環境情報Blog http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff
きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org
ラブアース・クリーンアップin北海道 http://www.love-earth-hokkaido.jp

NPO法人
北海道市民環境ネットワーク
「きたネット」

北海道の環境保全活動を推進・支援する団体・個人・企業が参加するネットワークです。

メッセージ

MESSAGE

6月に2019年の通常総会が無事終了し、新しい年度の活動がはじまりました。
きたネットのイベントに参加してくださる方の顔ぶれが多彩・多様になってきています。
産官学民、年齢のバランスもたいへん良く、学生や女性の参加者も増えています。
きたネットの活動が交流や情報交換の場となり、
横のつながりを活かした活動や事業が生まれていくことを願って、今年も活動していきます。
みなさま、ご協力ご支援をどうぞよろしくお願いします。

コラム

COLUMN

「きたマップ」は、目的の実現のために、何をなすべきか、その示唆を与えてくれます。

きたネット理事長
金子 正美 (酪農学園大学 教授)

新しい時代「令和」が始まりました。といっても、世界(もちろん日本も)では西暦2019年、イスラム諸国では1440年です。日本を基準に考えれば令和元年ですが、国が変われば見方も変わります。世界はそれぞれの多様な歴史、文化の中で動いています。

きたネットも、日本の中の北海道ではなく、世界の中の北海道を考えながら、多様性を尊重したネットワーク、パートナーシップを構築していくことが大切と考えています。

そのような考え方のもと、世界標準の仕組みで開発を進めたのが「きたマップ」です。

きたネットが、公益財団法人自然保護助成基金から助成を受け開発したインターネットを使った環境保全活動の情報公開システムです。

自然保護助成基金には、2019年4月、基金設立25周年の記念行事として、「きたマップ」をテーマとした公開記念シンポジウムを開催していただきました。また、2019年の特定テーマ助成として、「きたマップ」を活用、あるいは「きたマップ」に新たにデータを追加する活動に対して助成する特別なプログラムも作っていただき、今後、北海道の環境情報のプラットフォームとしての役割を期待されているところです。

さて、きたマップは、地図をベースとして開発を行いましたが、なぜ「地図」なのでしょうか?

地図は、情報を客観的にビジュアルに伝達することができる素晴らしい媒体である一方、2次元あるいは3次元の情報であるため、言葉だけで他者へ伝えることがとても難しい情報です。これは、絵画や彫刻といった芸術作品の素晴らしさを言葉のみで伝えることができないのと同じです。きたマップでは、この伝達することが難しい情報を、インターネットと地理情報システムを使って伝達することを実現しています。

この情報伝達の仕組みは、地域と地球をつなぐコミュニケーションツールとなります。これは、国連が定めた、2030年までの世界の目標、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するうえでも、とても重要な仕組みとなります。

昔、インド独立の父といわれるマハトマ・ガンジーは、「未来は、今、我々が何を為すかにかかっている」と述べました。

「きたマップ」は、単に情報を取得するものだけではなく、私たちが、目的の実現のために、何をなすべきか、その示唆を与えてくれるものです。全ての市民環境活動のベースとして、そして、交流推進と北海道の環境保全、ひいては、地球環境の保全に寄与することを願っています。

きたマップ(http://kitamap.net/)

INFORMATION

インフォメーション

2019通常総会(6/22)において役員を改選しました。以下の体制で運営していきます。

理事長	金子 正美		
副理事長	枝澤 則行	川口 弘高	
理　事	秋山 孝二	麻生 翼	植田 英隆
	内山 到	草野 竹史	鈴木 玲
	東田 秀美	星 劭	宮本 尚
監　事	高橋 忠義	上野 雅樹	